

豊かな表現力の育成 ～伝え合う力を高める指導の研究～

I 研究テーマについて

伝え合う力を高める指導の研究について、ここ数年取り組んできている。昨年度の研究成果と課題を受けて、今年度も話すことと聞くことを相互に密接に関連させながらの指導についての工夫を取り上げた。また、児童の伝えたいという意欲を喚起するような話題発掘と提示の仕方、児童につけさせたい言語能力に合わせた言語活動の開発にも取り組んでいきたいと考えた。

II 研究の内容

1 「聞き取りメモの指導を通して聞く力を高める指導」

についての学習会（ワークショップ）

講師 井尻小学校 石田一元教頭先生

（1）聞き取りメモの段階指導

ピクチャーゲーム→ダンゴ虫迷路→迷子さがしクイズと、段階を追っていくことで効果的にメモをとることを通して聞く力を順次高めていく指導方法を学んだ。

ゲーム感覚で取り組む中で、メモをとる上での大切なことは、「姿勢を良くする」「話す人の顔を見聞く」といった態度面だけでなく、

①次の話を予想しながら聞く

②質問を考えながら聞く

③まとまりを考えながら聞く（ナンバリング・メモの記号化・図式化等）

等、技術として効果的に聞く技術を体験的に学んだ。

2 授業研究

（1）『聞き取り名人になろう』

後屋敷小学校 3年生担任 島田直美教諭

【目指す言語能力】お互いの考えの違いや共通点を考えながら聞く力

・楽しみながら行える3つのゲームを通して、メモの取り方について効果的なまとめ方を知り聞く力を高めていく学習活動である。

①段階的指導…児童の気持ちを盛り上げたり書くことに慣れたりするために、ゲーム的な要素の強い活動を取り入れメモの取り方の技術を育てていった。

②形態の工夫…どの児童の主体的に参加できるようにブレインストーミング的な話し

合いを行い、自分の考えが肯定的に認められる雰囲気の中で自分の考えを表現しやすいようにした。

③交流活動…ブレインストーミング的な話し合いで自分たちの意見をグループでまとめることでよりつけさせたい力に近づけるようにした。

【成果・課題】

- ・「聞き取りメモの取り方」を取り入れた単元開発により、発達段階に即して楽しく効果的に伝え合う力の育成ができることが分かった。
- ・開発した学習材（「聞き取りメモの取り方」）及び理論を実践した結果、音声言語においても段階的指導の重要性や、音声言語と文字言語との有機的な関連、教師の評価や話し合いにおいての話題について学ぶことができ非常に有意義であった。
- ・聞き取りメモの取り方など具体的な方法を提示し、子どもたちに教え発表する機会を多くすると、子どもたちの伝え合う力を高めることができることが授業実践を通して確かめられた。

3 実践交流

- ・石田教頭先生のワークショップを受けて研究同人が「話す・聞く」について一実践を持ち寄り、授業の様子を交流した。
- ・各自が授業を持ち寄ることで互いの問題意識を共有することができた。

Ⅲ 成果と課題

- 伝え合う力を支える言語能力を分析し、高めたい言語活動を明らかにした上での実践ができ、子供が楽しく学び合う姿がみられ、伝え合う力を高める指導法の研究ができた。
- ワークショップ形式の学習会で学んだことが、授業研究や日常の授業で生かすことができた。
- 音声言語においても段階的指導の重要性や音声言語と文字言語との有機的な関連について学ぶことができた。
- 「いかに自分の考えを持たせるのか」「その考えをいかに伝えるのか」「他者の考えをもとにしていかに自分の考えを再構築して伝えるのか」という流れを確立する学習材、及び指導方法の開発が重要である。
- 学習会で学んだことを授業研究・実践発表等に生かす理論＝授業という流れができ、実りある研究になった。
- 次年度にむけては、子どもたちの考えを深め表現力をはぐくむために、音声言語と文字言語が有機的に関わるような学習形態・指導方法・教材開発の研究を継続し深めていくことが必要である、という意見が出された。

(部長 岡村 太郎)